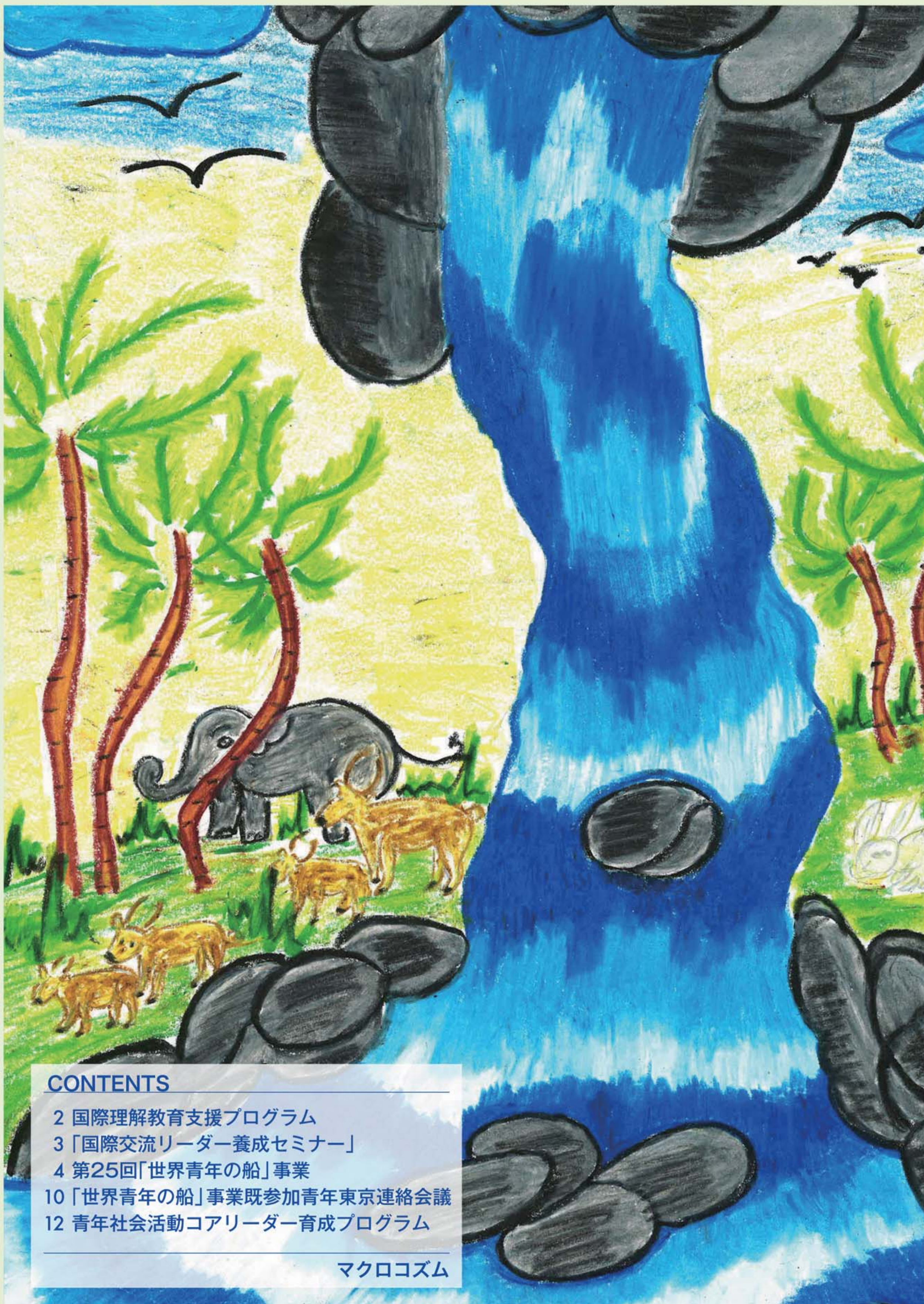


MACROCOSM



CONTENTS

- 2 国際理解教育支援プログラム
- 3 「国際交流リーダー養成セミナー」
- 4 第25回「世界青年の船」事業
- 10 「世界青年の船」事業既参加青年東京連絡会議
- 12 青年社会活動コアリーダー育成プログラム

マクロコズム

「世界青年の船」事業既参加青年東京連絡会議

2013年3月17日～23日に実施された既参加青年東京連絡会議には、日本青年国際交流機構を含む各国事後活動組織28か国の代表者が出席しました。この会議において、1995年に発足した国際組織(SWYAA)を発展させ、本格的な国際連携組織となるためにSWYAA国際連盟(SWYAA International)を設立することを決定しました。そのために、1996年と1997年に作られた「世界青年の船」事後活動組織合意書(東と西)をまとめた「世界青年の船」事後活動組織憲章を大幅に改定し、新たに「世界青年の船」国際連盟憲章を制定しました。また、SWYAA国際連盟への登録に当たって、公式加盟国・準加盟国の基準などを定めました。この新しい憲章は2014年1月に発効となります。

また、3月20日には、「各国事後活動発表会」を国立オリンピック記念青少年総合センターで実施し、一般を含めた130名以上の既参加青年が一堂に会しました。

そのほか、今後各国で取り組んでいくべき事後活動についてアイデアが共有され、すでに始動している「ホームステイ+1」や「SWYAAウェブラジオ」などを継続・発展させるほか、新たに「SWYAA国際連盟のブランディング」や「事後活動組織姉妹提携プロジェクト」などに取り組んでいくことが約束されました。



会議参加国: オーストラリア、バーレーン、ブラジル、カナダ、チリ、コスタリカ、エクアドル、エジプト、フィジー、ギリシャ、インド、日本国、ケニア、メキシコ、ニュージーランド、オマーン、ペルー、ソロモン、スペイン、スリランカ、スウェーデン、タンザニア、トンガ、トルコ、アラブ首長国連邦、英国、ベネズエラ、イエメン計28か国



森まさこ内閣府特命担当大臣への表敬訪問



内閣府担当者との懇談会で、各国でどのような事後活動を実施しているかという発表をする(写真はエジプト代表)

スケジュール

日付	時間	活動
3月17日(日)	終日	会議代表者 来日
3月18日(月)	10:00~12:30	オリエンテーション
	14:00~18:00	「世界青年の船」事業の今後について 内閣府との懇談の準備
3月19日(火)	10:00~14:00	内閣府担当者との懇談会 - 各国活動報告 - SWY25訪問国活動の報告 - 懇談(質疑応答)
	14:00~14:15	森まさこ内閣府特命担当大臣表敬訪問
	14:30~17:00	会議: SWYAA国際連盟の設立(憲章案)
	18:30~20:00	歓迎レセプション
3月20日(水)	10:30~12:30	「世界青年の船」事業事後活動発表会 - 各国の事後活動発表(28か国) - テーマ別分科会(来場者と交流)
	13:00~14:30	既参加青年との交流ランチ・パーティー
	15:00	フリータイム
3月21日(木)	10:00~18:00	会議: SWYAA国際連盟の設立(憲章案)
3月22日(金)	10:00~12:30	会議: SWYAA国際連盟の設立(憲章案)
	14:00~18:00	会議: 事後活動プロジェクトの提案
3月23日(土)	終日	会議代表者 帰国



内閣府担当官との懇談に向けて準備するなかで、「内閣府は事業の成果としてどのようなものを期待しているのか」「SWYAAは日本と参加国の外交的関係の強化に対してどのような貢献ができるか」という質問項目が挙がった



SWYAA国際連盟の設立に向けて、各国の意見を述べる



スウェーデンの代表を議長として、SWYAA国際連盟の新しい憲章の内容について協議する

事後活動発表会(3月20日)



事後活動発表会で各国の会議代表者が来場者に向けて事後活動組織の活動について発表(写真はイエメン代表)



教育、青少年育成、環境、ボランティア、「世界青年の船」事業関連活動、日本関連活動というテーマに分かれて意見交換をする



事後活動発表会で来場者とテーマごとに小グループに分かれて意見交換



事後活動発表会終了後の既参加青年との交流ランチパーティーには、約140名が参加した

SWYAAプロジェクトの紹介(ここでは、多数ある活動の中から一部を紹介します)

既存のプロジェクト

■ホームステイ+1

既参加青年が「世界青年の船」事業の参加国を訪れた際、社会貢献活動を通じて国境を越えた友情と国際協調の精神の持続を図ることを目的として実施する。事後活動組織の協力の下、各国で体験できるボランティア活動に関する情報をウェブサイト等で入手できるようにすることにより、旅行者である既参加青年は、事前に活動内容を把握することができる。プロジェクトには、植林のような半日若しくは1日完結型のボランティア活動(短期間)と、1か月若しくはそれ以上のボランティア活動(長期間)の二種類がある。

■SWYAAウェブラジオ

SWYAAギリシャが提案した24時間放送のインターネット上のラジオプログラムで、コミュニケーション、異文化理解、既参加青年の社会活動への参加の促進を目的とする。広報やレクリエーションなどの目的でも活用することができる。SWYAAウェブラジオでは、既参加青年が誰でも情報やSWYAAニュースなどを提供したり、重要なトピックや問題を議論したり、SWYAAラジオサーバーを通してライブチャットをしたりすることもできる。世界各国の既参加青年がDJになれるので、24時間放送も可能。将来的には他団体からの資金援助を受けることも検討中。
<https://www.facebook.com/SWYradio>



新規プロジェクト

■SWYAA国際連盟のブランディング

各国のSWYAAIは、今後、SWYAAで実施するプロジェクト、アクティビティ、イベントやSWYAAIに関する広報物には、常にSWYAA共通のロゴを使用するなど、統一の「ブランドイメージ」を作っていくこととする。

■事後活動組織姉妹提携プロジェクト

二つの事後活動組織が合意書を交わし、連携を強化することで、社会貢献活動を継続し、両国の事後活動組織が参加・協力するプロジェクトを実現させることを目的とする。メキシコがリードし、今後、活動を展開させる予定。

※SWYAA国際連盟やSWYAAプロジェクトの詳細は、「世界青年の船」事後活動組織ウェブサイトを御覧ください。

<http://www.swyaa.org>

第11回「青年社会活動コアリーダー育成プログラム」

平成14年度に開始された青年社会活動コアリーダー育成プログラムでは、高齢者、障害者及び青少年の各関連活動における社会活動の経験者を海外に派遣し、その国でこれらの分野で重要な役割を担っている民間組織等のリーダーを日本に招へいする相互の交流を通じ、社会活動の青年コアリーダーの能力の向上と相互のネットワークの形成を図っています。

派遣事業	平成24年 10月7日(日)～16日(火)	派遣先：英国(高齢者関連活動)、デンマーク(障害者関連活動)、ドイツ(青少年関連活動)に9名ずつ 派遣者は、招へいプログラムの各種実行委員として受入れに協力
招へい事業	平成25年 2月5日(火)	招へい青年来日 デンマーク、ドイツ、英国から、それぞれ三分野13名の青年リーダーを招へい
	2月6日(水)	開会式、基調講演、政府職員による講話、歓迎レセプション
	2月7日(木)～10日(日) NPOマネジメントフォーラム	総合テーマ「団体の理念を達成するための地域における連携強化 ～非営利団体と地域住民・企業・他団体との連携を深めるために～」 2月7日(木) <課題別視察> NPOマネジメントフォーラムのディスカッションテーマ(トピック1～3)に即した団体を訪問し、実際の現場の視察及び関係者との意見交換を実施 【トピック1：地域住民との連携】 訪問先：多世代交流型コミュニティ事業実行委員会(於：高柳公民館) 社会福祉法人つくりっこの家 就労継続支援B型「つくりっこの家クラブハウス」 【トピック2：地域における企業との連携】 訪問先：特定非営利活動法人自立支援センターむく(於：鹿骨公民館) 特定非営利活動法人ホールアース研究所(於：国立オリンピック記念青少年総合センター) 【トピック3：地域における他の非営利団体との連携】 訪問先：財団法人ハーモニセンター(於：目黒区碑文谷公園こども動物広場) 特定非営利活動法人リトルポケット(於：中野区精神障害者地域生活支援センターせせらぎ) 上記総合テーマ及びトピック(1～3)に基づき、日本の非営利団体関係者と共に討議を実施
	2月11日(月)	自主研修・日本文化体験
	2月12日(火)～17日(日) 地方プログラム	鳥取県：【高齢者関連活動】 総合テーマ「生きがいのある高齢者の生活」 大分県：【障害者関連活動】 総合テーマ「障害者の社会参加のための支援」 島根県：【青少年関連活動】 総合テーマ「ユースワーカーの育成の在り方」
	2月18日(月)	コース別発表会、成果評価会、修了式、歓送会
	2月19日(火)	招へい青年帰国

■大分県(障害者関連活動)

2月12日(火)	小風茂副知事表敬訪問、大分県福祉保健部障害福祉課による講義、社会福祉法人シンフォニーの概要説明、歓送会
2月13日(水)	社会福祉法人直心会つくし園、中津市教育福祉センターで中津市職員・関係者と意見交換
2月14日(木)	特定非営利活動法人みんなの広場とんとん、大分県立新生支援学校訪問
2月15日(金)	地方セミナー
2月16日(土)	ホームステイ
2月17日(日)	ホームステイ、歓送会、振り返り

社会福祉法人直心会つくし園 岸川 大樹

地方セミナーの分科会①「幼児期における障害の早期発見や発見後の適切な支援の介入」では、発達障害児に対する親の認識不足や必要な支援を受けるために親が発信しなければならない日本の現状が挙げられた。乳幼児健診で早期発見を行う日本と異なり、デンマーク・英国では訪問診療で異変に気付いたら即報告する義務がある。多くの目で早めに信号を拾い、医療やNPO、社会サービスとの連携の必要性は各国共通の認識である。健診に行かない親への支援や保育園での広報活動など、障害の早期発見に向けた各国での良い取組を組み合わせ、地域全体で目指すべき取組を図



式化した。

どの子供も大事との考えを根底とした子供中心の支援、いかに良い親業を促進するかという親への教育の提供のどちらも大切である。日本でもペアレントサポートの取組はあるが、家族を支えるシステムはまだ不十分である。

親と子供の強いつながり、また親同士のつながりが重要であり、障害のある子供を育てるためにはより個々のニーズに合った支援が必要となる。現在の資源を十分に活用できるような広報活動や各国で効果をあげている訪問支援の充実、さらに身近に話やすく相談できる場の確保に向けて今後取り組んでいきたい。

地方プログラム

地方プログラムでは、関連活動(コース)ごとに分かれ、鳥取県(高齢者関連活動)、大分県(障害者関連活動)、島根県(青少年関連活動)を訪問し、コーステーマに沿ったプログラムを実施しました。各訪問県では、関連団体を訪問し、非営利団体及び各分野の関係者と共に地方セミナーを開催しました。

■鳥取県(高齢者関連活動)

2月12日(火)	藤井喜臣副知事表敬訪問、鳥取県福祉保健部長寿社会課による講義、歓迎会
2月13日(水)	社会福祉法人地域でくらす会小規模多機能型居宅介護木守舎訪問 湯梨浜町立羽合小学校で湯梨浜町長寿社会福祉課による認知症啓発活動授業見学
2月14日(木)	社会福祉法人伯耆の国特別養護老人ホームゆうらく訪問
2月15日(金)	地方セミナー
2月16日(土)	振り返り、ホームステイ
2月17日(日)	ホームステイ、ホストファミリーとのお別れ会

Ruth Richardson, UK Delegation Leader

My organization was already looking to set up a Circles of Care model in Bristol, where we employ one coordinator per district of the city to connect lonely older people within their communities, hoping this project will reduce isolation and provide older people with better access to services such as a computer course or advice on welfare benefits.

Having heard of a scheme in Japan whereby local utilities companies keep a watch over isolated older people in their neighborhoods, I have contacted one of the major suppliers in my region in the hope of setting up a new befriending project with their meter readers. The response has been positive so far and we hope to develop this work in the future.

I was much impressed by the focus placed on community in Japan and the urge to enable older people to continue living in their communities as long as possible. I am aware that 97% of older people in the UK wish to remain living in their own homes. I will keep in touch with my Japanese counterparts to discuss how we can enable older people to do this.

■島根県(青少年関連活動)

2月12日(火)	小林淳一副知事表敬訪問、島根県健康福祉部青少年家庭課による講義、歓迎会
2月13日(水)	特定非営利活動法人緑と水の連絡会議訪問
2月14日(木)	特定非営利活動法人ユースネットしまね訪問
2月15日(金)	地方セミナー、ホームステイ
2月16日(土)	ホームステイ、歓送会
2月17日(日)	振り返り

特定非営利活動法人緑と水の連絡会議 高橋 賢史

青少年の居場所作りを行っている当法人では、圏域の青少年分野関係者と共に外国参加青年の受入れを行いました。「行政との連携」、「指導者・支援者の人材育成・定着」を切り口にした分科会で意見交換を行った後、「青少年育成・支援活動基盤作りの在るべき方向性」について全体意見交換の中で、「若者が最大限に能力をいかし一人一人が自分の意見を言える社会を作る」必要性が挙げられ、社会の様々な決定プロセスに青少年を参加させることなどが提案されました。

大田市では子ども・若者育成支援地域協議会の設置準備が進ん



藤井喜臣副知事表敬訪問

英国団団長 ルース・リチャードソン

私の所属団体は以前から、地域社会で孤立した高齢者への対策として、ブリストル市の地区ごとにコーディネーターを採用し、介護モデル・プロジェクトを立ち上げてきた。このプロジェクトが目指すのは、孤立した高齢者を減らし、コンピューター講座や福祉給付に関する助言の場も含めて、高齢者が社会サービスを受けられるようにすることである。

地域社会で孤立している高齢者を電力会社がモニターする計画を聞き、帰国後に地元電力会社の一社に連絡を取り、検針員によるビフレンダー・プロジェクト(声かけ運動)を立ち上げたいと申し入れた。積極的な反応があるので、今後この活動を展開していきたい。

日本では地域社会が非常に重視され、高齢者ができる限り長く地域社会で生活できるよう取り組んでいることがとても印象的だった。英国では高齢者の97%が自宅に留まることを希望しているため、その実現のためにも日本の仲間と今後も情報交換を続けていきたい。



地方セミナー

でいます。総合相談窓口のみならず、現状の課題に対応した施策を提言するなど、中間支援組織にも期待が高まっています。また、当事者である青少年の意見を政策に反映させることを目標に、当法人と行政の協働により、青少年議会(仮称)の設立準備を進めています。

受入れを通して、関係者が一体感を持ち話合いのスタートに立つことができたと感じています。圏域の青少年分野は未成熟ですが、だからこそ自分たちの手で作り上げていくことができる可能性を感じています。

～IYEO東日本大震災復興支援活動に係る助成金を活用して～ 南三陸玉手箱プロジェクト



青年国際交流事業既参加者の経験や知識、情報、アイデアをいかし、IYEOが東日本大震災の被災地の復興に貢献するため、平成23年にIYEO東日本大震災復興支援金から助成金の支給制度を制定しました。今回はこの助成金が適用された「南三陸玉手箱プロジェクト」を紹介します。

このプロジェクトは第13回「世界青年の船」事業既参加青年である高橋裕一郎さん(すぎのき整骨院院長)と角谷快彦さん(名古屋大学大学院講師)とが共同代表となり、IYEO会員5名を含む7名のグループが、仮設住宅の皆さんの経済的自立、仕事を通じた生きがいの増進を支援することを目的とし、実施しているものです。

宮城県南三陸町の柘沢・土野沢・歌津中学校グラウンド仮設住宅の皆さんが作った手芸品を「玉手箱」という箱に入れて、大阪府高槻市でボランティアが販売しています。売上は、南三陸町から高槻市までの輸送費を除き、すべて作成者の収入になります。

手芸品の販売会の開催、店舗での常設販売、府外協力者への販売で合計68万8,520円の売上がありました。(2013年7月29日現在)本プロジェクトを通じ、仮設住宅の状況について理解を広めるための講演会等も行われました。

詳しくはこちら⇒ http://www.geocities.jp/fukkou_tamatebako/



■最近の活動内容の一部

代表・高橋の玉手箱の取組に関する講演(2014年2月23日、高槻市教育委員会復興ボランティア講演会にて予定)
高槻市生きがい工房にて玉手箱販売
大阪肛門科診療所より玉手箱の追加注文
天神の湯で有名な企業のボランティア担当者への販売
高槻市アルプラザにて玉手箱販売
高槻JAZZストリートにて玉手箱商品の販売
代表・高橋が南三陸町仮設住宅及び伊里前にて医療ボランティアを実施。追加注文あり
【南三陸スペインプロジェクト】スペインのマドリッド、バルセロナ、マラガの3都市での南三陸仮設住宅手作り品販売が決定

★平成23年度青年社会活動コアリーダー育成プログラムのニュージーランド派遣団(障害者関連活動)による書籍が出版されました!

「障害のある人が社会で生きる国 ニュージーランド」 障害者権利条約からインクルージョンを考える
小野浩監修 障害福祉青年フォーラム編 ミネルヴァ書房 定価2,500円

内容 障害は社会との間にある
ニュージーランドの普遍的な社会保障制度と行財政改革のいま
ニュージーランド障害戦略とは
ニュージーランド障害施策の課題と日本への示唆 等



お詫びと訂正

マクロコズムvol. 102のP.14「第6回『青年の船』40周年記念大会報告」の本文2行目
【誤】OM (Overseas Members)と呼ばれる訪問国の青年たちが同時に乗船したこと
【正】オセアニアを訪問したこと
以上、訂正してお詫び申し上げます。

今月の表紙

スリランカ教育支援プロジェクト「One More Child Goes To School」の奨学生(当時3年生・男子)の作品。
キラキラと輝く豊かな水が流れる滝、数多くの鳥のさえずり
の下で仲良く暮らす野生動物たち、そこには太陽の光が降り注ぎ、大地には緑があふれています。日本人にとっては休暇に訪れてみたい場所ですが、スリランカの子供たちにとっては、そんな場所がとても身近にあります。



編集後記

本誌に掲載している写真の大半は、プロではない一般の人が撮ったものです。以前は、「携帯電話で撮影した写真は不可」としていましたが。画質が悪くなく、サイズも小さいため、冊子に掲載するには不向きだったからです。でも、今では、そのような小さな写真を提出してくる方はいなくなりました。スマートフォンが普及し、画質の良い写真が撮影できるようになったからかもしれません。(ふ)

MACROCOSM 8月号 vol.103

2013年8月30日発行

編集 マクロコズム編集委員会

発行 一般財団法人 青少年国際交流推進センター
〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町
2-35-14 東京海苔会館6階

TEL: 03-3249-0767 FAX: 03-3639-2436

e-mail: macrocosm@iyeo.or.jp

URL: <http://www.centerye.org/> (CENTERYE)

<http://www.iyeo.or.jp/> (IYEO)

編集協力 内閣府子ども若者・子育て施策総合推進室
日本青年国際交流機構 (IYEO)

定価 200円 [本体191円]

印刷所 株式会社デックス

TEL: 03-3400-8089 FAX: 03-5469-5270

「ココロ花咲く、ステキな旅を。」

支店名	電話番号	支店名	電話番号
札幌支店	011-221-0821	三重支店	059-221-3331
青森支店	017-723-3671	滋賀支店	077-565-0109
盛岡支店	019-651-8800	京都支店	075-361-5351
仙台支店	022-263-3232	大阪支社第2営業部	06-6344-3927
秋田支店	018-866-0109	神戸支店	078-221-1090
山形支店	023-641-4141	奈良支店	0742-23-2371
福島支店	024-523-4451	和歌山支店	073-425-3211
水戸支店	029-224-6627	鳥取支店	0857-23-2001
宇都宮支店	028-636-7761	松江支店	0852-21-5425
高崎支店	027-325-3201	岡山支店	086-225-1746
さいたま支店	048-640-1009	広島支店	082-545-1090
千葉支店	043-243-0109	山口支店	083-972-5454
ストリームライン 新宿支店	03-5348-3500	徳島支店	088-622-8991
横浜支店	045-326-1120	高松支店	087-851-6666
甲府支店	055-222-0381	松山支店	089-941-9231
新潟支店	025-243-1515	高知支店	088-825-0109
富山支店	076-431-7638	福岡支店	092-739-0010
金沢支店	076-233-0109	佐賀支店	0952-26-1131
福井支店	0776-23-2800	長崎支店	095-827-4151
長野支店	026-226-4315	熊本支店	096-354-5765
岐阜支店	058-263-4657	大分支店	097-538-1091
静岡支店	054-255-1919	宮崎支店	0985-25-6111
名古屋支店	052-232-1091	鹿児島支店	099-257-0109
		沖縄支店	098-868-8822

国際会議からご出張まで、
お問合せは、上記支店またはお近くのトップツアー各支店へ

お客様満足度100%+αを追求するサービスマインド。

お客様の立場になる「想像力」、プラスアルファを創る「創造力」。

50年の実績と豊富な情報力を駆使して

高品質・高付加価値の商品とサービスを提供するトップツアー株式会社。

私たちは、旅を通じて新しい出会いと感動を創出する

【旅行インテリジェンス企業】です。



トップツアー株式会社

観光庁長官登録旅行業第38号 ©日本旅行業協会正会員・ボンド保証会員
〒160-0023 東京都新宿区西新宿7-5-25 西新宿木村屋ビル16階

<http://www.toptour.co.jp>

国際旅行事業部 ストリームライン新宿支店

03-5348-3500



1045055(02)
JISQ15001:2006準拠



撮影：中村風詩人



潮風を感じる、優雅な休日へ

サハリン、小笠原の船でしか見られない大自然を訪ねるクルーズ、
食欲の秋にぴったり、旬を満喫するクルーズなど
観光を満喫した後は、船はおいしい食事と華やかなショーなど、
きらめく夜のひとときへ。
クルーズならではの優雅な旅をお楽しみください。



○詳しいパンフレットをご用意しています。最寄りの旅行会社または、下記へお問い合わせください。

商船三井客船 クルーズデスクフリーダイヤル 9:30~17:00(土・日・祝はお休みです) 〒107-8532 東京都港区赤坂1-9-13 三会堂ビル5階
☎0120-791-211 <http://www.nipponmaru.jp>

一般財団法人 青少年国際交流推進センター主催
国際理解教育支援プログラム

平成16年度より、内閣府青年国際交流事業の参加経験がある在日外国青年を中心とした講師を日本の学校等に派遣して、国際的な視野を持つ青少年の育成に貢献しています。40回以上の開催実績があり、各学校から高い評価をいただいています。

■平成25年度 第1回

日付	平成25年6月11日(火)
実施先	東京都中央区立佃島小学校
担当者	佐久間明子先生(3学年主任)
対象	3年生(3学級 計85名)
テーマ	講師の母国の文化紹介(食べ物・民族衣装・伝統ゲーム等)
派遣された外国人講師	Mr. Jaime Jr. Mupas Collado(フィリピン) Mr. Liu Mingquan(中国) Mr. Leng Chandara(カンボジア)

■講師の感想

Mr. Jaime Jr. Mupas Collado(フィリピン)

児童たちは、国際理解教育の授業があることをあらかじめ知らされていたので、皆、当日の発表を集中して聴いてくれました。質問事項を事前に送ってくれていたなら、更にダイナミックな授業になったことでしょう。全体を通じて、児童ととても楽しい時間を過ごすことができました。発表だけでなく、ゲームや対話等、相互交流ができるとより良いと思います。担任の先生も非常に協力的でした。ありがとうございました。

Mr. Liu Mingquan(中国)

授業を通じて、日本の小学生が外国の文化を理解し、国際的な意識を高めることができました。また、講師も自国を紹介しながら日本の小学校の現状を知ることができるので、日本にいることの価値が感じられました。このプログラムにより、相互の信頼感が生まれると思います。

■スケジュール

10:45	講師到着、講師オリエンテーション
11:30~12:20	各クラスにて、講師の各国文化紹介 簡単なあいさつ/食べ物/伝統民族衣装 生活文化・習慣/伝統ゲーム等
12:20~13:00	給食交流
13:00~13:30	講師の振り返り、解散



■平成25年度 第2回

日付	平成25年6月25日(火)
実施先	東京都大田区立清水窪小学校
担当者	早川隆之副校長、須藤好恵先生
対象	全校生徒152名
テーマ	ゲストティーチャーの出身国の文化や生活習慣を学ぼう! 小学校の様子について聞いてみよう!
派遣された外国人講師	Mr. Leng Chandara(カンボジア) Mr. Ahmed Elsayed Moustafa Hegab(エジプト) Ms. Sun Jiaru(中国)

■講師の感想

Ms. Sun Jiaru(中国)

上野校長をはじめ、清水窪小学校の皆様にご温かく迎えていただき、感謝しています。5年生の授業では踊りを、6年生の授業ではチャイナドレスを試着してもらい、衣装の歴史的背景を紹介したところ、児童たちが積極的に参加してくれてうれしかったです。授業中は担任の先生に御協力いただきましたので、助かりました。また、給食も御一緒に、準備の時間は子供たちと交流を深めることもできました。多くの5年生たちが自分の名前の中国語の発音を聞きに来てくれたのも、一対一で児童と話ができる良い機会となり、楽しかったです。

■スケジュール

10:00~10:45	講師到着、副校長による講師へのオリエンテーション
10:45~11:30	3時限目(1、3、5年生のクラスで授業) 各クラスにて、講師の各国文化紹介
11:35~12:20	4時限目(2、4、6年生のクラスで授業) 各クラスにて、講師の各国文化紹介
12:30~	給食交流2、4、6年生のクラス
13:30	講師の振り返り、解散



一般財団法人 青少年国際交流推進センターでは、小学校、中学校、高等学校、大学、自治体等からの講師派遣やプログラムのコーディネート等の依頼にも応じています。お気軽にお問い合わせください。 問合せ先 国際理解教育支援プログラム担当: 田中 佐代子・大久保 正美 E-mail: iuesp@iyeo.or.jp Tel: 03-3249-0767 Fax: 03-3639-2436

一般財団法人 青少年国際交流推進センター主催
第6回 国際交流リーダー養成セミナー

平成25年3月30日～31日に、第6回「国際交流リーダー養成セミナー」を東京都中央区日本橋にある当財団の会議室にて実施しました。

テーマは、「グローバル時代のリーダーシップ～プレゼンテーション能力の向上を目指して～」でした。国際化が広く進む中で、日本社会においても異文化への理解力や国際社会への対応力が必要となっています。地域に在住の海外の方も増えており、企業においては海外進出を促進していかなければならない状況です。こうした社会状況の中でリーダーシップをとれる人材がより多く求められています。そこで、グローバル時代のリーダーシップ、特に発信力のある人材の育成に焦点を当て、具体的にはプレゼンテーション能力の向上を図ることとし、以下の3点でプログラムを組み立てました。

- ・ 国際社会において求められるリーダーシップとは
- ・ グローバル社会への対応に必須となる危機管理の基本的な考え方
- ・ プレゼンテーション能力の向上を図る実践的なプログラム

セミナーには、主に非営利団体に勤務する方・ボランティアの立場でかかわっている方、リーダー育成に関心の深い方を中心に11名が参加しました。

3月30日(土)

時間	プログラム
11:00～11:15	開講式
11:20～12:00	オリエンテーション・アイスブレイキング
12:00～12:45	<全体会①> グローバル時代のリーダーシップとは
13:00～14:00	昼食交流会
14:15～15:45	<全体会②> 安全管理の基礎理論(安全な事業運営のために)
15:45～16:15	休憩
16:15～18:30	<全体会③> プレゼンテーションの基礎 (講義/参加者発表/振り返り/参加者発表/まとめ)
19:00～21:00	懇親会

3月31日(日)

時間	プログラム
10:00～10:45	<グループワーク①> 企画の基礎
11:00～12:30	<グループワーク②> 企画づくり「青年が中心となった町おこし」 ・異文化理解促進 ・商店街の活性化 ・広報プロジェクト
12:30～13:30	昼食
13:45～15:15	<グループワーク③> 企画づくりとグループ発表の準備
15:15～15:30	休憩
15:30～16:30	<グループ発表> 各グループの企画について助成金獲得を目指した発表
16:40～17:00	アンケート記入・振り返り・閉講式

参加者の感想(アンケートより一部抜粋)

- プレゼンテーションの基本を学び直すことができました。実際に発表してみることで、自分のくせを把握することができました。また、自分自身のリーダーシップの特性を確認することもできました。この研修は、学んですぐに実践できる機会が設けられていたので、スキルを定着させることができましたと思います。
- 参加者皆さんの発表方法がバラエティに富んでいて、非常に刺激的でした。印象付けるために小道具を用いる方やレジュメを人数分準備して配る方など工夫の仕方は一つではないことを学びました。
- グループワークでは、アイデアを出して皆で本音の意見を言い合うことが大切だと感じました。これから職場だけでなく、活動していく場で今回学んだことをしっかり頭にインプットしていきたいです。
- 安全管理について、これまで重要と認識しながらもその認識が低かったため、このセミナーを通じて重要性を改めて認識し、気を付けることや優先順位の決め方について理解することができました。
- このセミナーで学んだことを地域の障害者支援についての新しい提案に役立てていきたいです。分野を超えて多職種、多機関で連携して具体的な企画をしていきます。



「グローバル時代のリーダーシップとは」の全体会に引き続き、安全な事業運営のための基礎理論について説明を行う(財)青少年国際交流推進センターの大橋玲子事務局長(H25.3.30)



(財)青少年国際交流推進センター 上村知昭理事長より参加証を授与された参加者(H25.3.31)



第25回「世界青年の船」事業

The 25th Ship for World Youth Program

第25回「世界青年の船」事業では、“Smiling & Sailing With You Forever”というスローガンを掲げ、日本と世界の10か国の青年が船の中で一つの世界を築き、19日間の船内と寄港地(国内3地域)での活動を行いました。また、日本参加青年はその後、海外での8日間の訪問国活動で、コース・ディスカッションのテーマに沿った各種の交流活動を行いました。

参加国：

バーレーン王国、チリ共和国、コスタリカ共和国、フィジー共和国、ケニア共和国、メキシコ合衆国、ニュージーランド、スリランカ民主社会主義共和国、トルコ共和国、アラブ首長国連邦及び日本

日程	内容
1月23日～2月3日	外国参加青年来日・国内活動・出航前研修等
1月26日～2月3日	日本参加青年出航前研修等
2月4日～22日	運航 - 船内活動及び寄港地活動(沖縄県那覇市、兵庫県神戸市、岩手県大船渡市)
2月22日～3月1日	日本参加青年外国派遣 - 訪問国活動(バーレーン王国、メキシコ合衆国、ニュージーランド、スリランカ民主社会主義共和国、トルコ共和国)
3月2日～3日	日本参加青年帰国後研修

構成：日本参加青年約110名、外国参加青年100名(10か国×10名)
(参加青年数には、各国代表団のナショナル・デリゲーション・リーダーを含む)

船内活動

船内では、コース・ディスカッション(異文化理解、教育、環境とCSR、情報・メディア、国際関係)、リーダーシップ・セミナー、クラブ活動、グループ活動に加えて、委員会によって企画・運営されたPYセミナー、ナショナル・プレゼンテーション(NP)等が行われました。



石井晴子指導官が、リーダーシップ力を高めるための各自のゴール設定を記入するワークシートの書き方を説明する(リーダーシップ・セミナー)



ボランティアリズム(ボランティア精神)について各自のとらえ方や社会における意味について討議し、環境問題解決に向けての役割を考える(コース・ディスカッション/環境とCSRコース)



小グループで「家庭教育、学校教育、社会教育のそれぞれの役割」について話し合い、全体共有する(コース・ディスカッション/教育コース)



東日本大震災や世界で起きた災害の概要を講義する日本参加青年(PYセミナー)



バーレーンの結婚の儀式的のデモンストレーション(ナショナル・プレゼンテーション)



国際関係コースの参加青年が外交上で守るべき基本的なルールについての学びを発表(サマリー・フォーラム)

寄港地活動

第25回「世界青年の船」事業では、国内の寄港地3県（歴史的な特徴や多彩な文化を持つ沖縄県那覇市、阪神・淡路大震災から復興を遂げた兵庫県神戸市、東日本大震災の被災地である岩手県大船渡市／陸前高田市）を訪れました。参加青年は、日本の多様な面を認識して現状を正しく学び、青年が社会に貢献していくことと、今後、自らの社会活動につなげていくことの重要性を実感しました。

どの寄港地でも、受入県青年国際交流機構の会員を中心とした実行委員等が、ディスカッションテーマごとの課題別視察、地元青年（ローカル・ユース）との交流、船内でのレセプション等に協力しました。

1. 沖縄県(那覇市)

日程	時間	活動
2月8日(金)	8:00	那覇入港
	9:30~14:00	コース・ディスカッション別課題別視察(注1)
	15:00~17:00	ローカル・ユースとのアイスブレイキングと意見交換
	18:00~18:30	オープニングパフォーマンス
	18:30~20:00	歓迎レセプション 与世田兼実沖縄県副知事あいさつ デリゲーション・パーティー
2月9日(土)	9:30~14:00	レター・グループごとに那覇市内散策(ローカル・ユースの案内による首里城と国際通り見学)
	15:00	那覇出港

(注1) 課題別視察先

- 異文化理解コース： 沖縄NGOセンター(沖縄県庁にて)
- 教育コース： 沖縄尚学高等学校
- 環境とCSRコース： 沖縄コカ・コーラボトリング株式会社
- 情報・メディアコース： 沖縄テレビ放送株式会社
- 国際関係コース： JICA沖縄国際センター

所感

沖縄NGOセンター

沖縄から海を渡った先人たちの想いや母県との絆、現地で培った沖縄県人のネットワークや沖縄に海外への移民が多い社会的背景についての学びを深め、これらを若者が引き継ぎ、後世に伝える活動をしていく重要性について話したいと考えていた。

受入れをして良かった点は、様々な国の方から見た沖縄の可能性や意見交換を行うことができ勉強になったこと。これにより、自らの立ち位置を再確認し、参加者から勇気をもることができた。また、参加青年と活発な質疑応答をし、独自の文化や歴史を持つ沖縄に興味を持ってもらったことはうれしかった。世界各国から、意識の高い青年が集まっていると実感した。

「沖縄移民」というテーマは、世界各地で抱えるグローバル化下における人の移動やアイデンティティーの抱える課題とも共通するものがある。そのため、沖縄移民という切り口から、そうした問題を考えることができるという手ごたえを感じている。

今回得た経験や自信をきっかけにして、今後も沖縄移民をキーワードとした海外との交流・協力事業を展開していきたい。



文武両道を目指す沖縄尚学高等学校で空手を体験(課題別視察：教育コース)



沖縄テレビ放送株式会社で、基地問題や近隣諸国との関係を含めた沖縄の現状について学びを深める(課題別視察：情報・メディアコース)



地方によって異なる民族衣装を紹介するメキシコ参加青年(歓迎レセプション)



ローカル・ユースによる案内で、首里城を見学しながら沖縄の歴史について理解を深める



2. 兵庫県(神戸市)

日程	時間	活動
2月15日(金)	8:00 9:00~13:30 14:00~17:30 18:00~20:00 21:00~22:00	神戸入港 コース・ディスカッション別課題別視察(注2) ローカル・ユースと神戸市内散策(注3) 歓迎レセプション 金澤和夫兵庫県副知事あいさつ ナショナル・プレゼンテーション(メキシコ)
2月16日(土)	9:00	神戸出港

(注2) 課題別視察先

異文化理解コース： たかとりコミュニティセンター(船内にて)
教育コース： 兵庫県立芦屋国際中等教育学校
環境とCSRコース： カワサキワールド及び川崎重工業株式会社(船内にて)
情報・メディアコース： 株式会社神戸新聞社
国際関係コース： 人と防災未来センター及びアジア防災センター

(注3) 市内散策地

神戸市東灘下水処理場／神戸市東灘消防署・岡本地区／弓弦羽神社
兵庫県立美術館／神戸元町商店街／神戸税関・神戸レガッタ&アスレチッククラブ
海外移住と文化の交流センター・北野工房のまち／神戸外国クラブ
UCCコーヒー博物館／兵庫県立大学 大学院シミュレーション学研究所
神戸空港／兵庫大仏と長田地区



川崎重工業株式会社で取り組むCSR活動について講義を受ける
(課題別視察：環境とCSRコース)



神戸新聞社で阪神・淡路大震災の後にどのように新聞を発行し続けたかについて話を聞く
(課題別視察：情報・メディアコース)



ローカル・ユースの案内で兵庫県立美術館を見学する



船上レセプションで自国の旗の意味について説明をするフィジー参加青年

3. 岩手県(大船渡市・陸前高田市)

日程	時間	活動
2月18日(月)	8:00 9:00~10:00 10:15~15:30 16:30~18:00 19:00~20:30	大船渡入港 久保田崇陸前高田副市長による講演 コース・ディスカッション別課題別視察(注4) ローカル・ユースとのアイスブレイキング 歓迎レセプション 達増拓也岩手県知事あいさつ(代読) 戸田公明大船渡市長あいさつ
2月19日(火)	10:00~14:00 17:30~19:00 19:15~21:00	ローカル・ユースとのレター・グループ活動 (施設訪問)(注5) 文化交流会 夕食会 戸羽太陸前高田市長あいさつ
2月20日(水)	9:00	大船渡出港

(注4) 課題別視察先

異文化理解コース： 社会福祉法人 燦々会 あすなろホーム
特別養護老人ホーム高寿園 なごみの家
教育コース： 大船渡市立越喜来小学校
環境とCSRコース： 太平洋セメント株式会社 大船渡工場
情報・メディアコース： 株式会社 東海新報社
国際関係コース： 陸前高田市役所

(注5) レター・グループ活動訪問先

おおふなと夢商店街／陸前高田市社会福祉協議会
さいとう製菓株式会社 中井工場／大船渡市日頃市小学校
大船渡市末崎小学校／八木澤商店
世界の椿館・碁石／酔仙酒造株式会社 大船渡蔵
株式会社阿部長商店 大船渡食品
赤崎・蛸ノ浦合同小学校／大船渡市長洞仮設住宅

所感

受入実行委員長 関本 彩子

受入実行委員会は、神戸の震災後の復興や国際都市の様々な側面について学ぶプログラムを企画しました。自由参加であったにもかかわらず、ミーティングには多くのローカル・ユースが参加し、訪問地の選定から企画や通訳までしました。国際交流になじみのないメンバーもいましたが、責任を与えられると生き生きと下見に行き、地元の方の話から得られた様々な情報を基に、苦労しながらも3時間半という短い時間に収まるようなプログラムを作り上げました。かけがえのない絆を作り、自立性や自発性を養い、やり遂げた自信をつけました。

当日は、訪れることでしか分からない神戸の魅力を参加青年たちに紹介でき、外国参加青年はもとより、日本参加青年が熱心に地元の方のお話を聞いていました。また、下見では、時間をかけて様々な方のお話を伺ったので、ローカル・ユース自身が地元神戸の新たな側面を発見する機会ともなりました。

所感

阿部長商店

おしなべて、東北人とりわけ岩手県民は人見知り激しく、私たちも例外ではないと不安に思っていました。しかし、工場見学、自社で用意した懇親会の場では、参加青年の皆さんが談笑する姿を見ることができ、ホッとしたことを覚えています。

皆さんに覚えておいていただきたかったのは、「建物は壊れたら修繕すれば元通りになるが、人と人の絆は修繕が困難」との考えから、社員とその家族を思いやり、甚大な震災被害を受けても、全社員の雇用継続を英断した経営者（リーダー）がいたことです。それに答えるべく、無給でも自ら進んで片づけを手伝った新入社員、過酷な生活環境ながら、片付けをした社員と会社との絆がありました。加えて、地域住民、官民一体となり、日本のみならず世界規模で御支援をいただいて復旧、復興ができたことを胸に刻んで感謝し、日々を送っていくことが、私たちにとって肝要であると感じます。

この度の訪問は、私たちの中でも薄れかけてきた復旧、復興に対する周りへの感謝の気持ちを、改めて思い起こすことができた貴重な時間となりました。心から感謝申し上げます。

所感

岩手県青年国際交流機構 受入実行委員一同

第25回「世界青年の船」事業で日本、外国の青年約210名を乗せた客船ふじ丸が、平成25年2月18日8:00に岩手県大船渡市に寄港しました。大船渡市、陸前高田市の両市で2日間活動し、20日朝、野々田埠頭を出港し、寄港地プログラムが無事に終了しました。

18日は、コース・ディスカッション別の視察。19日は、北海道、東北から参加の青年（ローカル・ユース）約50人も新たに交え、11のグループに分かれて大船渡、陸前高田の学校や企業、仮設住宅を訪問し、各行先でレクチャーを受け交流しました。船上では、活動の振り返り（情報・意見交換）、お世話になった方々を招いたレセプション、各国のナショナル・プレゼンテーションなど短い時間ながら、学び、感謝、文化、交流と様々な要素がぎゅっと詰まった多くの活動を行いました。

2泊3日の大船渡寄港地活動で、外国、日本、地元と各々の青年たちが何かを感じ、今にも芽が出そうな種を自分の中に得て持ち帰ってくれば嬉しく思います。そして、その種がきっと花咲くことを願っています。

御協力くださった訪問先の皆様、市民の皆様、市長はじめ多くの行政関係者の皆様、ありがとうございました。第25回「世界青年の船」事業の外国参加青年、日本参加青年、ローカル・ユースの皆さん、思いを寄せ、岩手と世界に新たな橋を架けてくれ、ありがとうございました。この受入れにかかわってくださった皆様に心より感謝申し上げます。



久保田崇陸前高田副市長による東日本大震災後の復興への取組について講演を聞く



陸前高田市役所で海外広報ディレクターのアミア・ミラー氏の活動について話を伺う(国際関係コース)



文化交流会でコスタリカ参加青年が伝統的な踊りを披露



八木澤商店の河野会長より東日本大震災での被災の様子とその後の復興への取組について話を伺う



特別養護老人ホーム高寿園「なごみの家」で柴田園長より施設概要や震災時の様子についてお話を伺う



文化交流会で受入実行委員が参加青年を歓迎してさんさ踊りを披露する



訪問国活動

19日間の航海後、日本参加青年はコース・ディスカッションのテーマごとに分かれて、トルコ共和国(異文化理解)、バーレーン王国(教育)、ニュージーランド(環境とCSR)、メキシコ合衆国(情報・メディア)、スリランカ民主社会主義共和国(国際関係)のうち1か国を訪問しました。現地では、各国政府機関を表敬したほか、ディスカッションのテーマに沿った施設の訪問や活動、さらに、ホームステイ又はホームビジットを行いました。

1. トルコ共和国(異文化理解コース)

月日	活動
2月22日(金)	東京(羽田)発(関西、イスタンブール経由)
2月23日(土)	アンカラ着、オリエンテーション、表敬訪問(青年スポーツ省)、歓迎夕食会/施設見学
2月24日(日)	ホームステイ・マッチング、ホームステイへ
2月25日(月)	ホームステイ、課題別視察(アンカラ大学)
2月26日(火)	文化体験ワークショップ(トルコの紙装飾技法エブルを学ぶ)、日本国大使館訪問(トルコと日本の両国関係について講義)、表敬訪問(Suat Kilic青年スポーツ省大臣、荒木喜代志日本国大使)、歓迎夕食会(日本国大使公邸)
2月27日(水)	アンカラ発、イスタンブール着 課題別視察(トプカプ宮殿)、自由時間 歓送夕食会(バジェシヒール大学)
2月28日(木)	課題別視察(バジェシヒール大学)、建築学科副学部長Murat Dundar助教授による講義、大学施設見学、イスタンブール発
3月1日(金)	東京(成田)着



バジェシヒール大学で異文化理解学習とそれに関連する大学の取組について学ぶ



バーレーン国内トップの公立学校であるカウラ女子高校を訪問し、先生と懇談する



アンカラ大学の日本語学科の学生と交流し、既参加青年でもあるテキメン博士から異文化理解についての講義を受ける

2. バーレーン王国(教育コース)

月日	活動
2月22日(金)	東京(成田)発(ドバイ経由)
2月23日(土)	バーレーン着、オリエンテーション、シェイク・イブラヒムセンターとムハラク旧市街視察、歓迎レセプション(角茂樹在バーレーン王国日本国大使、バーレーン政府青年スポーツ庁Noora Salh氏等出席)
2月24日(日)	課題別視察(国立教育・技術の資格及び品質管理機関、バーレーン大学訪問)、バーレーン要塞とカラート・アル・バーレーン博物館見学、歓迎夕食会
2月25日(月)	コーラン博物館見学、課題別視察(カウラ女子高校)、アハマド・アル・ファター・モスク見学、スーク(市場)にてバーレーン既参加青年と共に自由時間
2月26日(火)	ホーム・ビジット
2月27日(水)	課題別視察(英才教育センター)、湾岸石油化学工業会社視察、バーレーン文化体験(バーレーン・ナイト)
2月28日(木)	アル・ジャスラ伝統工芸館訪問、歓送昼食会、バーレーン発(ドバイ経由)
3月1日(金)	東京(成田)着



バーレーン政府青年スポーツ庁主催の歓迎パーティーに出席されたMs. Eman Faisal Janahiバーレーン政府青年スポーツ庁青年担当局長(前列左から5番目)及び角茂樹日本国大使(前列左から6番目)とともに

3. ニュージーランド(環境とCSRコース)

月日	活動
2月22日(金)	東京(成田)発(オークランド経由)
2月23日(土)	ウェリントン着、オリエンテーション
2月24日(日)	ニュージーランド参加青年、既参加青年と市内散策、ホストファミリーと対面 ホームステイへ
2月25日(月)	ホームステイ先から帰着、ホンゴエカ・マラエ訪問(政府職員によるCSR講義、先住民族マオリの観点から見たCSR等)
2月26日(火)	国会議事堂見学、日本国大使館表敬、青年担当大臣による歓迎会
2月27日(水)	課題別視察(メリディアン・エナジー社)、ウェリントン発 オークランド着 オークランド市内散策
2月28日(木)	課題別視察(ベイズウォーター・スクール、環境教育プログラム紹介)、現地青年との交流(ワークショップとディスカッション) SWYAAニュージーランドとの歓送夕食会
3月1日(金)	オークランド発、東京(成田)着



政府主催の歓迎レセプションで、青年担当大臣と歓談する日本参加青年

4. メキシコ合衆国(情報・メディアコース)

月日	活動
2月22日(金)	東京(成田)発(ダラス経由)、メキシコ着
2月23日(土)	オリエンテーション、テオティワカン遺跡視察、SWYAAメキシコとの昼食と交流会、ホームステイへ
2月24日(日)	ホームステイ先から帰着
2月25日(月)	課題別視察(メキシコ国立自治大学にて学生とディスカッション等)、課題別視察(テレビ局TVアステカ)
2月26日(火)	日本国大使表敬訪問、青年庁表敬訪問、課題別視察(イベロアメリカナ大学コミュニケーション学部にてパネルディスカッションと意見交換等)、歓迎レセプション(日本国大使公邸)
2月27日(水)	モレロス州アマトラン村訪問(村の小学校にて図書寄贈式、コミュニティ活動に参加) ホテルにて修了式
2月28日(木)	メキシコ発(ダラス経由)
3月1日(金)	東京(成田)着



イベロアメリカナ大学でコミュニケーション学部の学生に迎えられ、交流しながらキャンパス内を歩く

5. スリランカ民主社会主義共和国(国際関係コース)

月日	活動
2月22日(金)	東京(成田)発
2月23日(土)	コロンボ着、オリエンテーション、歓迎夕食会
2月24日(日)	キャンディへ移動、ホストファミリーと昼食、ホームステイへ(仏歯寺見学等)
2月25日(月)	ホームステイ先から帰着、スリランカ文化体験(カルチャーショー)
2月26日(火)	コロンボへ移動、途中ミレニアム・エレファント・ファウンデーションで象に乗る体験 コロンボで記者会見とSWYAAスリランカ主催交流夕食会
2月27日(水)	課題別視察(ラクシュマン・カディガマール国際関係及び戦略問題研究所) 表敬訪問と日本国大使主催の歓迎レセプション(日本国大使公邸)
2月28日(木)	課題別視察(コロンボ大学国際関係学部、JICA事務所)、歓送夕食会
3月1日(金)	コロンボ発(バンコク経由)、東京(成田)着



1泊のホームステイ中に、ホストファミリーとカレー作りを体験